

まず、これほどまでに素晴らしい庭園がここ横浜に存在していたという事に驚きと感動、幸福感さえ感じた。

広大な敷地中心にそびえる三重塔。そのランドマークを囲むように佇む古建築群、それらは背後の山々によって外部から守られるような佇まいを見せる。

さらにその山々は敷地外に密集する住宅地や工場地帯など負の要素を一切排除する役目を持っているようにも見え、建築的に言えば、完成度の高いランドスケープを持った、計算され尽くした庭園であることに間違いない。園内を散策してみると、敷地全体を肌で感じ取りながら、素晴らしいロケーションが目に飛び込んでくる。何処を見ても絵になっており、自然と古建築とが絶妙な間合いを取りながら配置されている点など、関心以上のものを感じた。

建物に近づいて、焦点を絞って見てみると、現代の木造住宅には見ることのできない、匠の技による細かな仕事が見て取れる。鉋で帯状に削ったものを編んで仕上げた廊下の天井や、釘頭を見せないように天井の骨組みを現して意匠的に仕上げ、天井裏から仕上げる片流れ天井、縁側の建具に関しては、格子の交差部を良く見てみると縦棧と横棧が交互に勝ち、さらに交差部を相互に欠き込み、面まで取ってぐらつかない様に固定している点など、とにかく繊細な仕事が随所に施されており、最早芸術と言った方がしっくりくる。

お昼を頂いた隣家苑では、園内の蓮池で取れた蓮の実で、女将さん自ら手間隙掛けて作って頂いた蓮の実ごはんを頂く事もでき、今回非常に人間の手による暖かさという物が、料理と同じように建築にも現れてくることを改めて感じる事ができた。日頃RC造を主に扱う我々にとっては、非常に新鮮な見学会になりました。

